

# やまがた農の匠

～令和7年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞 大豆の部（個人） 鶴岡市 うえだ ともや 上田 智哉 氏



上田 智哉 氏

品種 シュウリュウ

収量 256.9kg/10a

経営面積 15ha（うち大豆 5.7ha）

**Point** ▶ スタブルカルチによる根域確保と排水対策の徹底により、生育量の安定確保と多収を実現！

## 高収量技術の肝

- ・ JA で計画的な大豆作付を行っており、地域ごとまとめた品種に取り組み、団地化およびブロックローテーションを計画的に行い、効率的に適期作業を実施している。
- ・ 圃場周縁の明渠施工による排水対策を実施することで安定した出芽・苗立ちを順調に確保している。
- ・ 前年秋にスタブルカルチを施工し、土壌の通気性や透水性を改善。湿害と干ばつの双方に対応した圃場条件を整えている。これにより根域を確保し、初期生育の安定と生育量の確保につなげている。
- ・ 開花期追肥を行い、子実肥大を促進している。

# やまがた農の匠

～令和7年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

## 県知事賞 大豆の部（団体）

高畠町 株式会社萩原農園 はぎはらのうえん 萩原 はぎはら 拓重 たくじゅう 氏



萩原農園のみなさん



レーキ式除草機

品種 すずかおり

収量 327.9kg/10a（1・2等のみ） 369.4kg/10a（3等含む）

経営面積 26ha（うち大豆 13ha）

### Point

#### 高収量技術の肝

- ・ 明渠の設置（圃場の周縁部＋中央部）とスマート農業技術を積極的に活用し、トラクターの自動操舵技術で精度の高い作業（排水対策播種）を実践している。
- ・ サブソイラによる弾丸暗渠で透排水性を向上させることに加え、バーチカルハローでの播種床づくりによって、出芽・苗立ちを安定させ、その後、適期管理作業を行っている。
- ・ 施肥については、前年の生育状況を踏まえ、鶏ふんまたは石灰窒素入り化成肥料から選択し、全層施肥を実施。令和7年度は苦土石灰を側条施用し、追肥は未実施。
- ・ 出芽後は約10日おきに計3回レーキ式除草機で中耕を行い、土壌環境の向上と雑草抑制に努めている。
- ・ 摘芯技術を取り入れ、過剰生育を抑えるとともに分枝数・さや数を増やし、高収量を目指している。
- ・ 品質安定には適期収穫が最も重要と考えている。また、選別については粒径選別機の他に色彩選別機を活用し、必要に応じて手選別も実施している。

# やまがた農の匠

～令和7年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞 そばの部（個人） 尾花沢市 藤井 儀徳 氏



藤井 儀徳 氏

品種 最上早生

収量 110 kg/10a

経営面積 60 ha（うちそば 30 ha）

## Point

### 高収量技術の肝

- ・ 排水が良く、そば栽培に適した圃場を選定して作付けを行っている。
- ・ 黒化率 60～70%程度で速やかに刈取り作業に入り、収穫ロスがないよう努めている。
- ・ 自動操舵トラクターなどのスマート農業技術の活用や、収穫機械・乾燥機を計画的に導入することで適期刈取が可能な生産体制を構築している。
- ・ 地元畜産業者と連携して堆肥の連用を行い、地力の維持、土壌物理性の改善に努めている。
- ・ 全面積で化学肥料・化学農薬を使用せず、持続可能なそば栽培に取り組んでいる。
- ・ 圃場条件や播種時期に応じて播種量を加減し、適正栽植本数確保に努めている。

# やまがた農の匠

～令和7年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

県知事賞

そばの部（団体）

上山市

すけあくるう  
SCARECROW



木村正臣組合長



圃場の様子

品種      でわかおり

収量      79.3kg/10a

経営面積      2.1ha（うちそば 2.1ha）

## Point 有機栽培による安定多収を実現

### 高収量技術の肝

- ・ 排水良好な圃場を選び作付けしている。
- ・ 苗立ち向上のため、碎土は丁寧に行い、碎土率を高めている。
- ・ 全面積、緑肥（ヘアリーベッチ）のすき込みによる有機栽培を行っており、窒素源の有効活用と環境保全型農業を実践している。
- ・ ヘアリーベッチを窒素固定能力のピークである開花期にすき込むことで、肥効を最大限に高めている。
- ・ 小畝立て播種により湿害を回避し、出芽・生育の揃いを良くしている。小畝立て播種機は近隣の生産組合と共用することで、営農コストの低減を図っている。
- ・ 適期収穫で高い収量・品質を維持し、令和7産は全量1等となった。

# やまがた農の匠

～令和7年度グッドハーベストコンクール受賞者のトップ技術～

## 県知事賞 飼料用米の部（個人）

酒田市 さとう せいいち 佐藤 誠一 氏



佐藤 誠一 氏

品種 ふくひびき

収量 845kg/10a

経営面積 7.7ha（うち飼料用米 1.9ha）

### Point 基本技術の励行による収量確保

#### 高収量技術の肝

- ・ 「老化苗」にしないよう、育苗期間 25 日程度の苗で田植えを実施している。
- ・ 50 株/坪の疎植栽培とすることで、省力化を図るとともに、倒伏を回避している。
- ・ 生育状況を踏まえ、遅れずに中干しを開始し、根の健全化や登熟向上につなげている。中干し効果を高めるため、作溝を施工するようにしている。
- ・ 施設園芸（メロン、ミニトマト、春菊など）との「複合経営」に取り組んでおり、水稻以外の作物の栽培管理もある中で、米の収量を落とさないため、育苗や水管理などポイントを押さえながら、栽培管理を行っている。